

二〇二五年度 健和看護学院 国語入試問題

(その二)

◆◆◆ 解答は、すべて解答用紙に書くこと。 ◆◆◆

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「クラスはみんな仲良く」という考え方には、昔はたしかに①現実的な根拠があったのです。なぜなら、小学校はだいたいムラに一つだったからです。「自然村」といわれる農村社会学の概念があります。行政村と対比される概念で、だいたい室町時代から江戸時代までの間に人びとが自然に集まってできた集落のことですが、明治時代になってこの自然村を **a キバン** に小学校が建ってくるわけです。そうすると、そこは代々家族ぐるみで顔見知りの子供たちが集まることになります。お互い親同士も顔見知りで、場合によっては何代も前から、「あの家はこうで、こっちの家はああで」と知っていて、「あの家から今度は次男坊が入ってきた」というような、学校を支える地域ぐるみでの濃密な関係がはじめからできていたのです。

そういう中で学校やクラスの運営がされていたわけで、近隣ネットワークの在りかたが今とは全然ちがうわけです。昔の濃密な近隣の支えがあつてはじめて、「クラスみんなが仲良くなるかな」という状態だったのです。

I、昔のそういう時代だつて、じつさいはクラス全員が仲良くなるというのは難しかったとは思いますが。でも、今に比べれば、ムラの共同的生活を核にした地域の支えがとても強かった。村中が総出で田植えや稲刈りを共同で行ったり、道路が傷めば道普請をし、共有林の下刈りなどの共同作業もありました。そうした地域の支えという現実的根拠があるからこそ、学校における共同性は実現していたわけです。

II とりわけ一九八〇年代以降は、都市部ばかりではなく地方においてもそういう支えがほとんどなくなつてきていて、地域自体が単なる偶然にその場に住んでいる人たちの集合体になっています。同じ地域から学校に通ってきているといっても、先生方は今でもついつい「クラスは運命共同体だ」というような発想になりがちなだけけれども、子どもたちは単なる偶然的な関係の集まりだしか感じていない場合が多いのです。

② こうした状況の中で、クラスで本場に「こいつは信頼できるな」とか、「この子といると楽しいな」という、気の合う仲間とか親友というものと出会えるということがあれば、それはじつは、すごくラッキーなことなのです。そういう友だちを作ったり出会えたりすることは当然なのではなくて、「とてもラッキーなこと」だと思っていたほうが良いことは多いような気がします。

そういう偶然的な関係の集合体のなかでは、当然のことですが、気の合わない人間、あまり自分が好ましいと思わない人間とも出会います。そんなときに、そういう人たちとも「並存」「共存」できることが大切なのです。

そのためには、「氣にいらない相手とも、お互い傷つけあわない形で、ともに時間と空間をとりあえず共有できる作法」を身につける以外にないのです。大人は意識的に「傷つけあわず共在することがまず大事なんだよ」と子どもたちに教えるべきです。そこを子どもたちに教育していかないと、先生方のこれからのクラス運営はますます難しくなると思います。「みんな仲良く」という **b リネン** も確かに必要かもしれませんが、③「気の合わない人と並存する」作法を教えることこそ、今の現実在即して新たに求められている教育だということです。

子どもたちに対すこうした教育の方向性は家庭でも必要なことだと思えます。こどもが「〇〇ちゃんというムカつくやつがいる」と家でふと漏らしたときに、「その子にもいいところはあるでしょう。相手のいいところを見てこつちから仲良くする努力をすれば、きつと仲良くなれるよ」というのは一見懐の広い大人の意見ですよね。その理想通りに運ぶこともあるでしょうが、現実にはなかなか難しいかもしれません。こんなときは、「もし気が合わないんだったら、ちよつと距離を置いて、ぶつからないようにしなさい」といった方がいい場合もあると思います。

これは「冷たい」ではありません。無理に関わるからこそ、お互い傷つけあうのです。ニーチェという哲学者の言葉で、「愛せない場合は通り過ぎよ」という警句があります。あえて近づいてこじれるリスクを避けるという発想も必要だということです。

ニーチェは、「ニヒリズム」という言葉で有名な哲学者ですが、もうひとつ「④ルサンチマン」というキーワードに焦点を当てて、ものを考えた人です。ルサンチマンとは「恨み、反感、嫉妬」といった、いわば人間誰もが抱きうる「負の感情」のことです。

誰でも、自分がうまくいかなかったり、世の中であまり受け入れられなかったりしたときに、自分の力が足りないんだと反省するよりも、往々にして「こんな世の中間違っているんだ」と考えたり、うまくいつている人たちを妬んだりするものです。そんな感情を自覚して、「どうやりすごすか」を考えることが大切です。ニーチェは、「ルサンチマンについて **c オチイ**」つてしまうのが人間の常なだけけれども、そこからどう **d ダツキヤク** できるか」ということを **e シサ** している哲学者です。「やりすごす」という発想が、非常に大事なことで私は思っています。

(『友だち幻想』菅野仁)

問一 二重傍線部 a～e のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線部①とは何か。本文中の語句を用いて簡潔に答えなさい。

問三 空欄 I～II にあてはまる適当な言葉を後のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア なぜなら イ では ウ むろん エ しかし オ すなわち

問四 傍線部②とはどういう状況か。簡潔に答えなさい。

問五 傍線部③とはどのような作法か。具体的に答えなさい。

問六 傍線部④とは何か。二〇字程度で本文から抜き出して答えなさい。

二 次の空欄に適当な漢字を入れて四字熟語を完成させなさい。

(その二)

1 一 ☐ 打尽

2 自画自 ☐

3 茫然 ☐ 失

三 次の1～3の慣用句・ことわざ・故事の()にあてはまる適当な言葉を漢字一字で答えなさい。

1 立て板に()

2 紺屋の()袴

3 朝三()四

四 次の語の反対語を、それぞれ後の語群から一つ選び、漢字で答えなさい。

1 苦痛

2 冷淡

3 急激

(語群) ギョウカイ カゲキ カンマン アンラク アンイ オンコウ

五 傍線部の例文における意味として最も適当なものを、①～⑤のうちから選び記号で答えなさい。

1 俺の大事なフィギュアを無造作に扱わないでくれ。

- ① 先の見通しを持たずに ② いらだたしげに荒っぽく ③ 慎重にやらず投げやりに
④ 先を越されないように素早く ⑤ 周囲の人たちを見下して

2 引越しを手伝ってくれという要求に二つ返事で応じた。

- ① 深く考えずいいかげんに ② あしらうようにすばやく ③ 念を押すように繰り返し
④ ためらうことなくすぐに ⑤ よく考えたうえで納得して

3 ミスは仕方ないとしても、奴の悪びれない態度は腹に据えかねた。

- ① 本心を隠し切れなかった ② 我慢ができなかった ③ 合点がいかなかった
④ 心配りが足りなかった ⑤ 気持ちが静まらなかった

六 次の文は小説の冒頭部分である。1は作者名を、2は、作品名と作者名をそれぞれ感じて正しく答えなさい。

1 国境の長いトンネルを抜けると雪国であつた。夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった。向こう側の座席から娘が立つて来て、島村の前のガラス窓を落とした。

2 石炭をばはや積み果てつ。中等室の卓のほとりはいと静かにて、熾熱燈(シネットウ)の光の晴れがましきも徒なり。